

分科会 17

摂食障害からの回復 ～家族と本人のために必要なこと～

ポコ・ア・ポコ： 鈴木高男
佐藤一郎
ひらこ
ヨウコ
ペコ、ほか

参加者 44 名（家族 4 名、当事者 2 名、専門的支援者 38 名）

第 1 部

「家族の支援するちから」をテーマにパワーポイントを使用し、家族が当事者を支えどのように支援していけばいいのか支援方法を説明

(演者) ポコ・ア・ポコ鈴木高男

(内容)

1. 医療者の役割と親の役割について
2. 摂食障害は対処行動の 1 つであることについて
3. 見えているのは表面の 1 分だけ（見えな部分に目がいくように）
4. 自己評価の低下
5. 受け入れとは（どこを受け入れるのか）
6. 当事者の根拠、思考、行動、結果、感情の流れ（孤独、不安、恐怖）
7. 共感について（どの部分にどのように共感するのか）
8. 心配の押し付け（親の心配と当事者の心配は違う）
9. 母親の大変さ
10. 日常生活とは（日常生活の幅を広げるコツ）
11. 考え方の推移（当事者が発する言葉、褒めるポイント）
12. 親の支援

第 2 部

当事者 4 名と家族 2 名が参加し、質疑を行いました。

支援者からは、当事者、家族の望む支援とはどういうものか、何が改善に役立ったのか等々活発な質疑応答がなされました。

専門的支援者といえども、各家族それぞれことなる日常生活という広範囲な中で起こる困難な部分をどう理解し支援していけばいいのか、混乱の中で対応している現状があるという声が上がりました。

さらに摂食障害当事者に対して実際に対応している専門的支援者は非常に少ない状況でした。

まだまだ摂食障害が一般的ではなく支援していく難しさがあるようです。そのため家族ができる支援を学び、実践していくことが必要とされます。

実際に日常生活の中で、コミュニケーションスキルを高め、当事者の心の成長を促し、支えていくことで症状はありながらも社会と関わりながら改善、回復へと進められています。